



B型肝炎について

B型肝炎は、B型肝炎ウイルスによる感染症で、一過性感染と出産時に母親から感染し症状のほとんどでない持続感染(無症候性キャリア)とがあります。海外旅行では、前者の一過性感染が問題となります。ウイルスは、持続感染者の血液や体液に存在しますので、一過性感染は輸血などの医療行為や性行為、ピアス、タトゥーなどで起こります。症状としては、黄疸、全身倦怠感、食欲低下、吐き気、嘔吐など肝炎症状が認められます。約2%の割合で劇症肝炎になり死亡することもあります。持続感染者はほとんどの人が無症状に終わりますが、約10%は慢性肝炎となり、その後肝硬変、肝臓に進展することがあります。

流行状況は？

持続感染者の全人口に占める割合は、我が国では約0.5%ですが、東南アジア、南アジア、オセアニア、アフリカなどでは非常に高く、国によっては10%以上の国もあります。これらの地域に長期滞在される予定の人は予防接種を勧めます。

予防方法は？

B型肝炎ワクチン(不活化ワクチン)を4週間隔で2回接種し、3~6か月後に3回目の接種をしますと効果が持続しますが、1割程度の方は抗体ができにくい場合もありますので3回接種を完了させることが重要です。

